第3回 河内長野市総合計画（第2部会） 議事要旨

日時:令和7年2月17日(月)

午前9時30分から

場所:501会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) 基本構想（案）について（協議）

→事務局より資料1・2に基づき基本構想（案）について説明。

<質疑>

江川部会長:改めて違う視点で見直すと色々思うところがあるが、これから皆さんからご意見をうかがいたい。

峯委員:言葉を選んで突き詰めていくと、そのイメージに引きずられることはあることだと思う。全体的にQA形式にされていて、この言葉を導きたいがための設問、というところは気になるところではある。次に目指すべき姿が目標として書かれていると思うが、ギャップを埋めるための努力はこれからだろうが。

西尾委員:きれいにまとめていただいたというのが率直な印象。河内長野の人口が減る中でどうするか。総合計画を知らせるための広報が大事。

松崎委員:新コピーを見させていただいて、一つだけ「サクセスフルなサステナブル」だけイメージができない。むしろ環境を前面に押し出した方が分かりやすい。あとは将来像がイメージできて良い。

望月委員:シビックプライドを持っている人にとっては刺さるが、持っていない人には刺さらないのではないか。表現は分かりやすくなっているが。

垣内委員:しっかりとした感想は持っていないが、地産地消のところ。農業がかなり衰退している。農業関係が重要になってくるので、3-4はこれで良いかな、と思った。

奥野委員:キャッチフレーズ、森の豊かな河内長野、森は色々な機能を持っていて、それが今生かされている。緑がもっとアピールされたら良いと思う。

藤林委員:施策は別に作る基本計画で落とし込むということなので、それがしっかりと分かればと思う。「サクセスフルなサステナブル」は作り手主導で分かりにくいと思った。河内長野を「都市」とイメージしている人はいないのではないかな。

駄場中委員:「カレー」が独り歩きしないか。全体的には前向きで河内長野の良いところを捉えている。自分が無理だろうと思っていたことが、市民が望んでいたり、既に

やられているけれど知られていなかったり、ということが分かって良かった。

安部副部長：この真横に施策が付くわけではないのであれば、具体的な施策は基本計画で検討します、ということが分かりやすく伝わるようにした方が良い。カレー1つだけ個別具体になっている。ありだとは思いますが独り歩きする可能性はある。「都市」のままにするのはなお異論がある。イメージできる概念とキャッチコピーが紐づいていないといけない。河内国の中心は藤井寺や八尾。南海の駅のアナウンスはよくできていて、そこでも都市とは言っていない。「新しい一歩、踏み出し放題。」は、良いのだが、飲み放題、をイメージしてしまう。「サクセスフルなサステナブル。」は伝わりにくいのではないか。

江川部長：いろんな意見があって当たり前で、まとめるのは難しいと思うが、そこにチャレンジしているので、この資料単独で出ていくと正しく理解されない、ということでも色々な意見が出ていると思う。やわらかい表現にしよう、というのはとても良いと思うので、工夫してほしい。望月さんの意見に近いが、ワクワク感が強すぎて、もう少ししみじみ感というか、観光も現状のにぎやかで良いのか、日常の文化や生活・風景が美しい、見てくれや感じ方も重要だが、本質的なことをきっちりやった結果、といった視点を持って、すべらないように気を付けてほしい。私も仕事でデザインガイドラインをつくったりするが、本当に必要なことが書かれているか、周りとの関係を考えて標準解ではないことを場所にに応じて考えてほしい。ワクワクは良いが、もう少し千年の歴史に耐える成熟したイメージがないと、大人の人はしんどいのではないか。若年層に入れ替わっていくのは単に人口が増えるということではなく、バランスが良い、ということ。「考え続けていく」ということを表現していただけたらと思う。私はここに住んでいるわけではないが、私がここで美しいと考える風景は、以前から住んでおられた方の仕事によるもの。

市事務局：ワクワクを重視はしているが、市民が自分事としてまちに関わるとか、自己実現できるということも重視している。このあとどうしていくか、ということについては多くの質問をいただいているので、そこは方向性を検討してく。表現は工夫したい。カレーのことやサクセスフルなサステナブルについては庁内からも意見が出ている。ご意見を踏まえて検討する。人口についてもご意見をいただいた。人口動態についても課題があることは認識している。具体的な施策については、基本計画でしっかりと検討していきたい。

江川部長：イタリアやフランスには人口を増やさないことを目標にしている村もある。日本のこの10数年は都市計画からまちづくりに変わっている。決まったこととして出すだけでなく、賛同の度合いがどれくらいあるかも示してもよいかも。

市事務局：市民が感じている河内長野の魅力はふだんの暮らし、というのは当方も感じている。もっと発展を打ち出した表現も使っていたが、今ここに落ち着いた。今ま

での構想は「こうします」と打ち出していたが、これからの構想は、この表現を職員や市民がどう具体化していくか、というものではないかと思う。幅があるのでその中で築いていけるものもあるのではと思う。意見を心に留めて、表現を変えるなり説明を加えるなりする必要があると思う。二次元コードを使って施策や解説につながる仕掛けなども考えている。議会で文章の部分の承認をいただくが、これを表現するデザインなども検討している。

3. 事務連絡

→市事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会